

福市遺跡（国指定史跡）

福市遺跡は米子市街地の南東4 kmの米子市福市の丘陵上にあり、東西500 m、南北400 mの範囲に広がっています。この内、日焼山と吉塚の39,414 m²が、昭和45年（1970）に国の史跡指定を受け保存されています。

遺跡は山市場、御所原、南御所原、四ツ塚谷、日焼山、吉塚、青木向、大成などの地区で調査され、全体では263基の遺構が確認されています。史跡指定地内では弥生時代後期（3世紀）から古墳時代後期（6世紀）にかけての、住居跡、土壙墓、古墳、横穴墓、柱穴群、溝などの合計133基の遺構が保存されています。遺跡からは、約35,000点の弥生土器、土師器、須恵器をはじめとして、鉄器、石器、玉類、土製品、鏡片など当時の生活を物語る遺物が大量に出土しています。

集落跡と墳墓群が区分された配置で一体となっているのが特色で、また住居構造、集落の変遷を知る上でも重要な遺跡です。

現在は資料館、復元住居が併設され、史跡内は、桜、ツツジ、花菖蒲も植えられ、花と緑と史跡の憩いの場となっています。



調査中の吉塚地区



復元住居



吉塚63号住居跡



日焼山土壙墓



整備後の遺構